

# いが地名考

かす  
が  
やま  
春日山

毎朝、県立あけぼの学園高校の前を通勤している。そう言えば、学校名もよく変わるものである。この高校は、1948年(昭和23年)に上野南高校定時制の西柘植分校として誕生したが、その後学区の変更で上野高校西柘植分校となり、上野高校春日分校と改称され、その後全日制高校となった。ここで言う春日分校の春日というのが今回紹介する「春日山」からの由来である。その後伊賀高校となり、現在の校名となる。

あけぼの学園高校は、製菓調理、美容服飾、情報教養、健康福祉の4系列を持つ総合学科の高校で、特に美容については、県内でも唯一特色あるカリキュラムがあり、校内に美容室を設置するなどユニークな高校である。名阪国道の御代インターチェンジのすぐ南に位置するが、住所は伊賀市川東であり、春日山の北



▶ 378

## 織田勢対抗 激戦の城跡



かつての激戦地で、城跡もある春日山

にある。さて、その春日山であるが、以前本地名考で池田会員が紹介した県指定文化財の春日神

社の裏山で、宮山とも呼ばれている。さらに、この春日山には、天正伊賀の乱の時に織田勢に対抗するために築かれたと思われる城跡がある。この山がある壬生野地区には、織田勢と戦った郷士の城館跡が多く残っているが、地区の中央に壬生野城や丸山城があり、そこを中心付近の郷士が立てこもって戦ったとされてきた。

「伊乱記」には、宮山合戦では地元の土豪たちは春日山に集結したとあるが、意外にも春日山城の発見は遅く、1994年(平成6年)、文化財パトロールにより発見された。山頂削平式で臨時に築城された城のようである。この発見は前述の宮山合戦を裏付けたといえる発見だったと言えよう。

壬生野の春日神社は、激戦

を極めた天正伊賀の乱の中、焼き打ちを免れた数少ない神社である。春日山城の真下にありながら焼かれなかったのは、奈良の春日神社に属し、若林御厨という重要な神領地だったので、同社の社人や興福寺の僧が来て織田勢の滝川一益に請うたため、神殿と拝殿だけは残されたといわれている。それだけ、当時の奈良の春日神社の力が強かったことがうかがえる。

激しい戦いのあった春日山ではあるが、現在は、農事組合法人ヤマギシ会が春日山実顕地として、広大な土地で牛を飼育、野菜を栽培するなど、の農地や生活の場としている。直売所もあるので、新鮮な野菜を求める人々の車が、春日山の坂道を登っていく。(伊賀の國地名研究会 辻喜嗣)